（様式６－Ａ）Ａ．雑誌発表論文による学位申請の場合

春日　健吾氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題　目

Treatment outcomes of endoscopic submucosal dissection and surgery for colorectal neoplasms in patients with ulcerative colitis

（潰瘍性大腸炎患者における大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術および手術の治療成績）

United European Gastroenterology Journal 9(8):964-972, 2021

Kengo Kasuga, Masayoshi Yamada, Dai Shida, Teppei Tagawa, Hiroyuki Takamaru, Masau Sekiguchi, Taku Sakamoto, Toshio Uraoka, Shigeki Sekine, Yukihide Kanemitsu, Yutaka Saito

論文の要旨及び判定理由

本論文は潰瘍性大腸炎(UC)患者における20mm以上の境界明瞭な病変に対する大腸粘膜下層剥離術（ESD）の有効性と長期予後および外科切除検体における境界不明瞭な病変の存在率を検討することにてdysplasiaの適切な取り扱いを明らかにすることを目的としたものである。本論文において、ESDは、UC患者の20mm以上の境界明瞭な病変に対して有効な治療法の一つであると考えられた。しかし、サーベイランス下部内視鏡検査では、粘膜治癒が得られている患者であっても、平坦病変に注意を払うべきであると考えられた。また浸潤癌を有する患者では、同時性に浸潤癌が存在する可能性があるため、大腸全摘術が望ましいことが示唆された。上記の内容を明らかにした臨床的に意義のある論文と考えられる。論文審査後、引き続き関連領域に関しての下記の口頭試問を行い十分回答を得た。以上より本論文は博士（医学）の学位に値するものと判定した。

口頭試問：

1. 潰瘍性大腸炎関連腫瘍の内視鏡治療の適応、外科手術の適応について。

   本邦のガイドラインでは、潰瘍性大腸炎などの慢性炎症を背景とした局在腫瘍は一括切除がのぞましいとされる一方で、high-grade dysplasia、癌などの悪性度の高い組織が検出された場合、外科切除（大腸全摘術）の絶対適応と記載されている。従って、sporadicな腫瘍や、low-grade dysplasiaは良い内視鏡治療の適応と考えられるが、一般的な大腸腫瘍とくらべ、範囲診断が困難であること、粘膜下層の線維化などで内視鏡治療の技術難度が高いこと、同時性、異時性病変のリスクなどがあることから、現段階では先進施設で内視鏡治療は行っていくべきであると考えられ、同時にエビデンスの創出も求められている。

2. 現行のガイドラインでは潰瘍性大腸炎関連腫瘍はhigh-grade dysplasia、癌の場合は外科切除(大腸全摘術)が標準治療とされている。内視鏡治療適応を拡大していくために、ガイドラインを変えていくためにはどのような研究を行っていくべきか。

   一般的な大腸腫瘍と比べると希少疾患であるため、多施設前向き試験による症例の集積が必要と考えられる。群馬大学の関連病院内で炎症性腸疾患のデータベースが作成されており、約1000名の炎症性腸疾患の患者を診療していることがわかっているため、群馬県内での多施設共同研究は検討される。また、群馬県のみならず、全国的な他施設共同研究も考えていく必要がある。これまでの臨床病理学的検討のみならず、分子生物学的検討も行うべきと考える。

（審査年月日）2023年2月27日

審査委員

主査　　群馬大学教授（医学系研究科）
消化管外科学分野担任　　佐伯 浩司　　印

副査　　群馬大学教授（医学系研究科）
病態病理学分野担任　　横尾 英明　　印

副査　　群馬大学教授（医学系研究科）
循環器内科学分野担任　　石井 秀樹　　印

参考論文

1. Removal of a large jejunal laterally spreading tumor nongranular type by endoscopic submucosal dissection
(内視鏡的粘膜下層剥離術による非顆粒型空腸側方進展型腫瘍の切除)
Endoscopy 54(10):E542-E543, 2022
Kasuga K, Uraoka T, Negishi T, Sato K, Tanaka H, Hosaka H, Kuribayashi S

2. Low-grade appendiceal mucinous neoplasms observed by magnifying endoscopy
(大腸拡大内視鏡で観察し得た低悪性度虫垂粘液性腫瘍)
Endoscopy 54(12):E704-E706, 2022
Kasuga K, Sato K, Hashimoto Y, Tanaka H, Hosaka H, Kuribayashi S, Uraoka T.